



2026年4月27日

各位

会社名 株式会社 P A L T A C
代表者名 代表取締役社長 吉田 拓也
(コード番号:8283 東証プライム市場)
問合せ先 取締役専務執行役員 嶋田 政治
経営企画本部長
(TEL. 06-4793-1090)

新物流センター建設（固定資産の取得）に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、下記のとおり新物流センターを建設（固定資産を取得）することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 新物流センター建設の理由

当社は、将来の環境変化に対応し持続的な供給体制構築による成長を実現するため、サプライチェーン全体の最適化・効率化を見据えた高効率な全国物流網の構築を進めてきました。特に2018年以降に新設した物流センターにおいては、労働人口の減少を見据え、AI・ロボティクスなどのデジタル技術を融合させたSPAIDモデルの導入により、人手を多く要するバラピックにおいて従来比約2倍の人員生産性を実現しています。

物流センターの設備投資においては、労働人口の減少や資材価格の高騰などにより、投資コストが増大し効率が低下しやすい環境にある一方で、価値観の多様化に伴い市場の多品種・少量化ニーズの進展により、物流オペレーションは一層複雑化し、より高精度かつ高効率な物流センターが求められています。このような構造的な環境変化に対応し、当社は需要量に応じた安定的な供給を継続するために新たな物流モデルの確立が不可欠であると判断しました。そこで当社は、長期ビジョン「つなぐ力で人と社会のミライを創る」における取り組みの中で、SPAIDモデルをさらに進化させ、従来比で圧倒的な生産性を目指す次世代型新物流モデルの開発に着手し、物流コンセプトの策定、技術開発および基本設計など一連の開発業務に取り組み、この度、センター建設（大阪府貝塚市）を決定いたしました。本物流センターの建設は、この新物流モデルを具現化し、将来にわたり持続可能な物流基盤を構築するための重要な取り組みとして位置づけています。

《完成予想図》



《新物流センターの特徴》

- ・労働人口減少が進行する社会情勢を反映し、AI・ロボティクス技術の活用やマテハン機器の新しい管理手法の導入などにより、「安定性」、「生産性」と「人にやさしい」センターを同時に実現することを目指しています。特に、人手が多いエリアであるバラピック生産性は、SPAID比で2倍を目指しています。
- ・自動化の比率向上とマテハン管理の手法変更により、一部作業では早朝・夜間の完全自動化に挑戦します。
- ・新たにデジタル技術を活用した仮想空間上でシミュレーションを実施しながら行う設計手法を取り入れ、上記取り組みの実現性を高めるとともに、長期間にわたり活用できるセンターを目指しています。
- ・環境に配慮し、太陽光パネル設置を前提とした設計を行っています。

2. 新物流センターの内容

名称	(仮称) RDC貝塚
所在地	大阪府貝塚市
敷地面積	23,629 坪 (78,113 m ²)
建築面積 / 延床面積	約 7,830 坪 / 約 14,980 坪 (約 25,884 m ² / 約 49,521 m ²)
稼働時期	2030 年 3 月 予定
投資総額 (予定)	349 億円
資金計画	自己資金

なお、本物流センターは、当社が既に保有している土地に建設するものです。

3. 今後の見通し (業績への影響)

当該物流センターの稼働は2030年3月を予定しているため、今期業績に与える影響は軽微であります。

以 上